



# くろいし有機農業推進協議会





## 佐藤 拓郎：農音楽家 Takuron

### 【自己紹介】

- ・ シンガーソングライター
- ・ 黒石市観光大使
- ・ 青森県学校教育サポーター
- ・ TVリポーター
- ・ くろいし有機農業推進協議会 会長
- ・ あおもりICT利活用推進プラン検討懇話委員
- ・ 日本一健康な土づくり推進プラン検討委員
- ・ 青森県総合計画審議会 産業・雇用部会委員
- ・ 株式会社 アグリーンハート 代表取締役
- ・ 株式会社 ビオ・フローズン 代表取締役







## くろいし有機農業推進協議会 設立理由

- ◆ 数年前から市内の農業法人と合同で有機栽培技術の社員研修を行っており、その研修を本格的に行うために助成を受けたかった。
- ◆ 環境保全型農業直接支払い交付金の受け皿を作りたかった。
- ◆ 地域の課題を行政・研究機関・JAと共に向き合うために。







# 津軽の有機農業の現状

- ◆ 有機農業に対する意識と理解が薄い。
- ◆ 指導できる人材が少ない（ほぼいない）
- ◆ 黒石市に有機JAS認証取得者はアグリーンハートのみ。
- ◆ 地域の農家は「今更自分の農法を換えるのが怖い」
- ◆ 県の有機農業推進協議会と連携して進む



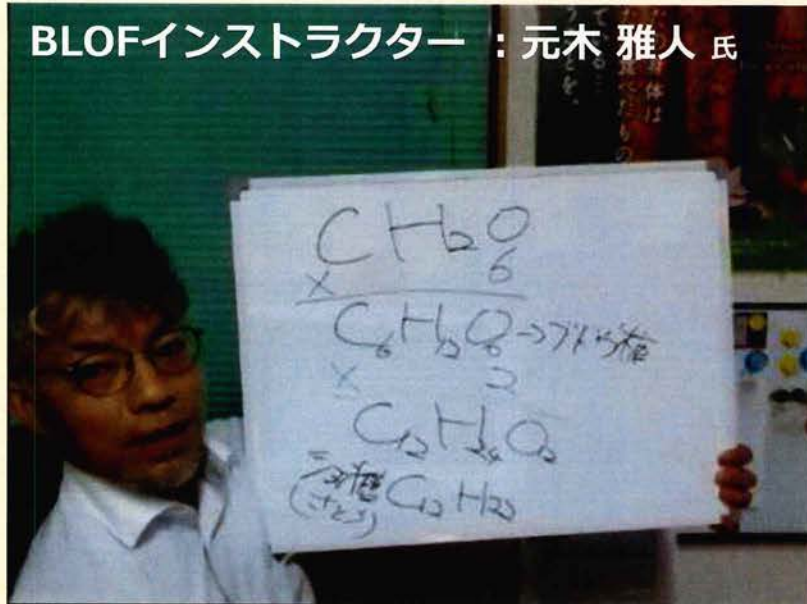




## くろいし有機農業推進協議会 取り組み その①

### ◆ BLOF理論のコンサルを入れて試験圃場を設け実践。

参加者約40名



協議会メンバーの3圃場で「トマト、じゃがいも、稲」の3品種でBLOF理論の実践開始。  
植物の摂理と、栄養素を高める施肥を勉強。  
年8回のオンラインセミナーと、3回の現地実習を予定。







## くろいし有機農業推進協議会 取り組み その②

### ◆ 地元の地域資源をピックアップ

【1】ホタテ養殖残渣堆肥



【2】地元企業製造 生ごみ堆肥

【3】地元養鶏場 発酵鶏糞について





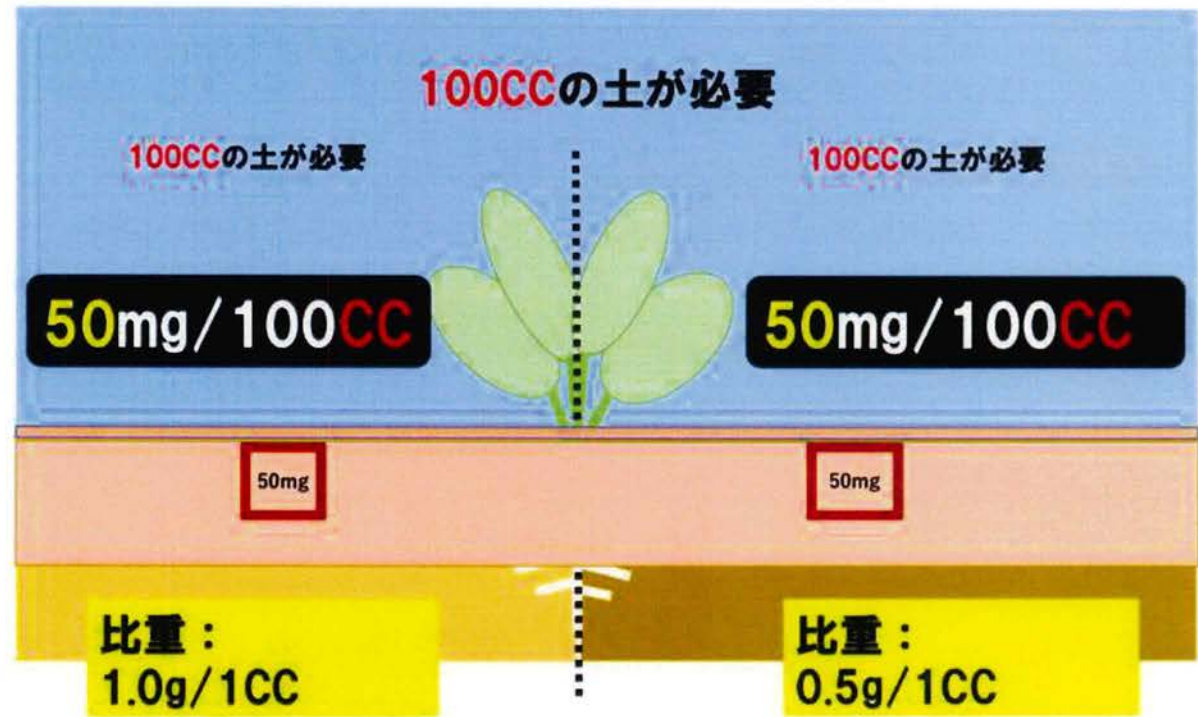


## くろいし有機農業推進協議会 取り組み その③

### ◆ 土壌分析を自分たちでできる体制づくり (堆積法)



#### 体積法による分析



①施肥設計 → ②生育中 → ③収穫後 (収穫物の成分分析と合わせて)





## 協議会の役目と課題

- ◆ 広域で地域連携し情報の共有体制づくり。
- ◆ 「有機農業とは」のリテラシーの向上
- ◆ 地域のロールモデルになるような経営の実践。  
「今更自分の農法を変えるのが怖い」という中堅農家へ  
生産技術と販路をサポートできる体制づくり
- ◆ 地域ビジョンを策定し、それぞれができることを考える。

